

刊夕日四十二月一



定額一圓五割... 廣告料五割十二字第一行金五拾銭... 日曜祭日の翌日休刊... 發行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日印刷局

小さい望み 二

國田芳夫

動物園は如何だらう。上の森蔭に四疊半式の動物園があるが、あれが動物園が可愛相だ。人間を粗末にして動物に愛護の方がはやる當今だからい、やうなもの、それでもあまりに小さい。あすこには北緯八十一度八分産とかの白熊の子もゐるし、赤道直下の河馬や鱉までが内地雑居してゐる。だから——ヒステリックの獅子が老豹を食ひ殺すやうになるのだ。郊外に四つ五つの丘を取圍んで動物をば——無論のこと植物園も一しよにして——植物と共に成るたけその故郷での生活状態を髣髴せしむるやうに生息せしめる。外國にはいくらか見本があるだらう。動物園の園にびりするだけではない、そこへ行けば人間ものんびりするやうにしたい。入場料は？むろん、そんなものは取りはしない。取らんから誰も行きたがる。それだからい、のた外國での名ある動物園は無料ださうだ。だから、少年少女が教室で先生に象の話を聞けば、休みに動物園に行つて本物を見ることが出来る。繪本の教育から本物の教育へと進化するのだ。今の教育では學校で教つたものを實地について見ようと云へば、すぐさま入場料子供半額と来る。五人も子供が居れば、大抵のバ、サン參るのだ。私は動物園を學校の教室延長ともしたいのだ。ある國にはかう云ふやり方もある。週日の一日だけを料金をとつて入れる。書かさや讀書人や、ユックリ動物等を見たい人はその日に行く、お人拂ひの一日を料金を取つてこしらへるのだ。土曜や日曜はタダだから一家を連れて遊びに行く。日曜だから大勢来るだらう。値上げしてやれと云ふのと、少し考へ方がちがふ。動物園などはなるだけ開放して、教室の延長であり、大學の研究所であり、旅行家の案内所であり、大人小人の息抜き所であり、そしてまた藝術家の思想の源であつて、今一つ。

わが國は海を以て環らされ、など、云ふけれど、コクに魚の名など知りやしない。かやうに水陸に大規模の動物園と、内容の充實に

い。大きな水族館を一つお臺場へんにこしらへることだ。北海のオットセイ、テッコも遊んでゐるし、太平洋の海底の有様も判るし、東京灣のハゼも悪くはないが、大きな鯛やサメが悠々遊戈してゐると更にい、。

【朝】 味噌汁——ねぎ油揚
【晝】 鰯の煮付——あられ生姜
【晚】 牛肉 すきやき
東北浅虫に帝大の陸海實験所があり、水族館がある。新潟縣の鯨磯に岩礁をセメントでつゞくり、天然の風光と海流を取り入れた規模は小さいが面白い魚族園がある。東京灣の水族館に行くには、岸邊の處々からはしげを出すはしげを少しは取つてもよからうが、水族館は無論のことタダだ。その水族館はやはり、海國の少年少女の教室の延長だ魚と海草と、そして海にもつとつと親しみますのだ。海國だと云ふのに國民の頭腦に海國意識があまりに稀薄なのは政治家や教育家が怠慢なからだと思ふ。

ノート
茶托に載せ茶を出す時に右手に茶托の右の方を持ち左手を下に添へ口を結んで息の掛らぬ様にする

わが國は海を以て環らされ、など、云ふけれど、コクに魚の名など知りやしない。かやうに水陸に大規模の動物園と、内容の充實に

かけては他に優るとも劣らない便利至極の民衆圖書館をたれか造へてくれなれないか。自然科学の方には相當にいい科學博物館がある骨董でも遊戯でもなく、忽ち生きて人を動かすやうな以上の設備が欲しいものだ重ねて云ふが入場料などケチな有害なものは決して取つちやいけない。金のことには藏相の高橋さんにも聞いてくれ。

紙信賴報電

者校照	信 息	手 切 便 郵	類 種 局 信 著
クノ	午前	二錢	市 内
ロラ	七時	廿錢	ウ ナ
トノ	時	一圓	注 意
ウン	〇二分	一圓	五十五字
サン	五分	二圓	二丁目
ナ	五分	三圓	番
キ	五分	四圓	一
ク	五分	五圓	付
ロ	五分	六圓	午前七時〇分
ラ	五分	七圓	
ニ	五分	八圓	
ホ	五分	九圓	
ヘ	五分	十圓	
ト	五分	十一圓	
チ	五分	十二圓	
リ	五分	十三圓	
ヌ	五分	十四圓	
フ	五分	十五圓	
ク	五分	十六圓	
ロ	五分	十七圓	
ニ	五分	十八圓	
ホ	五分	十九圓	
ヘ	五分	二十圓	
ト	五分	二十一圓	
チ	五分	二十二圓	
リ	五分	二十三圓	
ヌ	五分	二十四圓	
フ	五分	二十五圓	
ク	五分	二十六圓	
ロ	五分	二十七圓	
ニ	五分	二十八圓	
ホ	五分	二十九圓	
ヘ	五分	三十圓	
ト	五分	三十一圓	
チ	五分	三十二圓	
リ	五分	三十三圓	
ヌ	五分	三十四圓	
フ	五分	三十五圓	
ク	五分	三十六圓	
ロ	五分	三十七圓	
ニ	五分	三十八圓	
ホ	五分	三十九圓	
ヘ	五分	四十圓	
ト	五分	四十一圓	
チ	五分	四十二圓	
リ	五分	四十三圓	
ヌ	五分	四十四圓	
フ	五分	四十五圓	
ク	五分	四十六圓	
ロ	五分	四十七圓	
ニ	五分	四十八圓	
ホ	五分	四十九圓	
ヘ	五分	五十圓	

難 波 陸
内科一般
醫學博士 難波陸
平町大町新川端 電話五〇二

吸入用酸素純度99%
モノサシ
マ ス
ハカリ
体温計
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番
寫真材料一式販賣致シマス

かまぼこ製造
お惣菜用 さつま揚
吉原揚
電話一四一番
平町一丁目

市原醫院
平町田町(電話一一四番)
内科 小兒科 市原卯太郎
外科 一般、婦人科 市原陸郎
外科 梅毒、淋病 市原三三男
入院隨時
中村齒科醫院
平町鍛冶町七

庶民金庫好成績

純益七千四百圓を挙げ

組合員に年四分の配當

昨日總會で決定

信用組合平庶民金庫の總會は二十三日午後一時から同事務所樓上で開催されたが提出議案を満場一致で可決午後四時閉會したが同金庫の事業状況報告によれば昭和八年度の成績頗る優秀を示し純益七千三百九十九圓四十二錢を挙げ組合員配當金は年四分として三千八百九十五圓五錢を割り當てたが財男好轉の聲高い昨今は貸付金の回収も亦非常な好成績で諸橋理事長の眞摯な監督の下に昭和九年度の成績向上を目指して各職員業務に精勵益々輝かしい前途に恵まれてゐる因に現況左の如くである

信用評定

度末 一一、〇〇九、五八
本年度受入一、九七七、五
一五、四〇 拂戻一、九八
五、四一九、六一 現在三
一〇五、三七

委員

改選結果

平庶民金庫では別項總會で信用評定委員の改選を行つた結果當選者左記の如く決定

- 一丁目 明智榮司
- 二丁目 星野久八
- 三丁目 梅原利三郎
- 四丁目 松本愛三
- 五丁目 井上貞治郎
- 田町 金子豊吉
- 南町 鈴木祐孝
- 銀治町 國府田直良
- 新川町 野木龜吉
- 古銀治町 神谷玄三雄
- 長橋町 川崎文治
- 紺屋町 柳下元吉
- 搔樋小路 大須賀元助
- 久保町 永山義太郎
- 仲間町 吉田鎮政

年越えの金

目指して整理

六千圓の滞納に斷乎處分

平縣稅務出張所では八年度前期分の縣稅滞納額が現在平町外十八ヶ町村で約六千圓に達して居るので來月上

校外の風紀取締

一層徹底を圖る

平各校の協議題決定

平町各公私立學校生徒校外取締協議會は既記の如く來る二十六日午後二時より平

が當日の協議題は左の如くである
一、活動寫眞館へ定日以外出入する生徒の取締法如何
一、左側通行勵行の件
一、校外風紀取締を一層普及徹底せしむる方法如何

畑山知事夫人來平

愛婦會員募集の協議

愛國婦人福島支部では今回平町附近各村より新會員を募集する爲め來る廿九日支部長畑山知事夫人が來郡同日午後一時より平町役場會

數は減じても

死亡率は多い

平町の傳染病

平町に於ける昨年度中の傳染病發生數は合計七十六名で前年の八十名よりは減じて居るが死亡率十六名で前年の十一名より五名増した

磐中寒稽古皆勤

三百五十四名に達す

既報去る十一日より開始した磐中武道部寒稽古は昨日限り終了を告げたが皆勤者は六百餘名中三百五十餘名に達したと

水道延長

長橋町斷水

平町水道部では新町方面へ

き本年度同學年打合會反省に關する事項及び研究實施狀況に關する件に就いて種々協議した

△女中 二十前後 月七圓
△外間談
△回職を求める方
△自動車運轉手 二十五才
△中四修 給料面談
△機械工 二十四才 高卒
△給料面談
△七工夫 五十五才 二年修 給料面談
△小使 五十一才 尋卒 給料面談
△外交員 二十五才 高卒 給料面談

大浦組合の御誕生記念

大浦村農事實行組合では去る廿日協議會を開いた結果皇太子殿下御誕生の記念事業として全組合員がクルミの栽培を始めたがクルミは一歩から二百圓位の利益を見るので各組員共非常な意氣込みである

平職業紹介所報告

△洋服徒弟 十六才 尋卒
△女中 二十才 尋卒 月五圓 勤先東京
△出前持 二十才 尋卒 月五圓

平町人事

△結婚 姻
△材木町一池上富司氏(二一) 豊間村字原町六七鈴木サト(二〇)
△材木町二四當時秋田市龜ノ丁上町馬場文夫氏(三三) 四軒町一九本多春江(二三)
△回死 亡
△田町四七永山セキ(五三)

此の度

木炭部

設置致しました
お客様本位に勉強いたしますから何卒御用命は

電話二四四番へ

市原商店

平一丁目

上野—平間の

驚異的スピード

試運転のダイヤグラム決定

特急の常磐線 通過實現か?

上野—札幌間の特急實現を前提とする基本的試運転が東北本線及び常磐線で實施される。上野、札幌間の特急列車の運轉は丹那トンネルの

開通に

より今秋を期し全国的に列車時間の改正があるのをこれを機会に實現をみるらしく目下各種の試験中であるが同特急が東北本線を通ずるか將又常磐線を通ずるかを決定する爲めに二十三、四日兩日

上野—白河間、二十六、七の兩日上野—平間で試運転を行ふことになつたものにて上野—平間は水戸運輸事務所の

手配で

準備全くなり昨二十三日臨時運轉ダイヤグラムを決定した右による

▲廿六日水戸發午前十時四十分、上野着後十二時二十七分、上野發後二時五十五分、水戸着同四時四十三分▲廿七日水戸發午前十一時二十五分、平着後十二時五十三分、平發後三時五分、水戸着同四時三十一分

で往復する筈で上野、水戸間百七キロを一時間四十七分、水戸平間九十四キロを一時間二十九分で突破、平、上野間急行二〇一列車の所要時間を約一時間二十六分

短縮し

現在の制限速度九十五キロに對し最高百十キロまでの驚異的スピードを出すもので正にスピード

研古分團に

更生の春は訪る

兩町青年が自覺し

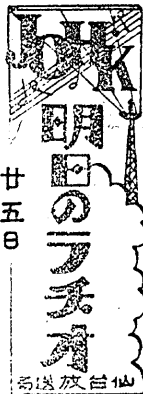
一切の問題を氷解

昨夜日出度く

平町第二區(研、古)青年分團は昨年來古鍛冶側が同分團より分離した型となり兩町青年間に確執紛糾を續け延びては

統制ある

平青年團の結束の亂れを生ぜらるゝを識者間に憂慮されておたが非常時の新春を迎へてさし紛糾を極めた同分團も兩町青年間の覺醒を招來し團體精神の根本と青年團本來



明日のラジオ 今夜も明日も播西の風天氣良し

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話し「不思議な犬」藤五代策
後六、二五 基礎佛語講座
(三) 目黒三郎
後七、三〇 講演「米國の平價切下とその影響につ

明日の部

後五、三五 受驗講座「國語一吉川英雄」
後六、〇〇 (子供の時間) 國語讀本の讀み方「山がら」お話し「神保格朗讀」東京高等師範學校附屬小學校兒童
後六、二五 英語講座(四) 若杉三郎
後七、三〇 講演出淵勝次
後八、〇〇 初天神實況
天満宮より中繼
後八、二〇 舞台劇「亂れ」
笠一中村時藤其仙
後九、〇〇 連續講談(第一席)大島伯鶴

弟妹の飢餓に 哀れ少女の盗み

流石に平署も同情し この一家に白米三升

好問村大字好問字中道居住砂利採取人夫西山サイ二女トモ子(二)假名は去る十六日同村字南町田坑夫渡邊清五郎方の不在中に忍入り現金八圓四十二錢在中の墓口を窃盗した事發覺平署で取調べた處トモの母親は日收僅か四十錢でトモの外七名の幼兒を抱へ幼児達の食事すら満足に運べぬ處からトモは弟妹の飢餓を見兼ねて盗んだと泣く々々申立てたので係官も同情し窃盗金は二十錢位より使つてないの母親を呼出して説諭を加へた上人相談所より白米三升を贈り歸宅せしめた

裁判所だより

△既報及葉郡大野村大字野上字井戸神澤七九農羽根石松(五)が假差押へされた稻全部を刈取つて食用に供した横領事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て關口判事係り三堀檢事立會の下に開廷され事實問の上檢事より懲役六ヶ月を求刑されたが判決言渡しは來る二十六日午前九時である

拂戻無効で 逕信省相手の訟訴

平局の千五百圓事件

委任状を偽造し平郵

既報高久村大字下高久字前ノ内二七農鈴木太吉氏が昨年一月十七日次男房吉に千六百餘圓記入の郵便貯金通帳と印鑑を窃盗されたので直ちに此旨を平郵便局に口答で届出たにも拘らず二月十三日前記房吉が窃盗した印を押捺し父が右貯金の内千五百圓を拂戻す事を房吉の妻ツルに委任した旨の

委託した旨の頭辯論開廷される事になつたが餘り例のない事件だけに各方面より注目されてる

平釣友會組織

平町に於ける釣魚の同好者達は



【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬 山本英春 演

井馬 德川家に崇る村正

第四百十四回

娘は谷へ真逆様

五左衛門はムツとした様子

五「イヤ宜い、さう貴様が申すなら、幾ら頼んでもあたら口へ風を入れるやうなもの、モウ頼まん」

治「モン旦那、お腹を立ては困ります、金子を用立てしなからと云つて旦那様が縁起でもない、長い物でもお抜き遊ばすやうな事がありますと、私は兎に角娘が心配を致しますから」

五「黙れ、物の都合から貴様に金子を借用したいといふのだ、決して強盗を働くやうな者ではない、苟くも徳川の直参だ、不埒な事を云ふな」

治「へエ左様でございますか、左様なれば宜しうございませう、貴所さうやつてお怒りになると、御一緒に参るのも何だか心苦しうございませう、おはるや、ブラ

／＼行かう、そんなにハラ／＼するな、どうせ旅をすれば途中でこわい事も哀しい事もある、旦那だつてお武家様であつて見れば、その邊も分りませう」

五「どの邊が分るのだ」と并續持ちの五左衛門

五「待てッ」と云ひながら、帯を押へやうとした途端に、娘は木の根のに躓いて、ヒョロ／＼ツとのめつて出る。生憎其處が崖ツ淵、あつと云ふ間に、數十丈の谷底へ、悲鳴をあげながら落込んだ、五左衛門も殺さうといふ氣はなかつたのだから大きに驚いたが、その態を見た治兵衛は怒り心頭に燃え、突然狂人の如くになつて

足を上げるとドーンと治兵衛を蹴倒した
治「アレ、何をなさる」
起上らうとする治兵衛へ
載掛らうとした時に、娘のおはるが金切聲を揚げてはる「アレー 誰か来て下さい、泥棒々々」



と言ひながら駆け出した

其處は悪い奴でも斯ういふ仕事に馴れてゐる譯ではないから、五左衛門面喰つて了ひ、治兵衛の方は其の儘にして、逃げて行く娘を捉まへやうと、ドン／＼追かけて来て

五「エ、放せッ、放さんか放さんと貴様も谷底へ投込むぞ」
治「サア投込んで呉れ、投込んで見ろ、その代り手前も一緒に連れて行くから覺悟をしろ」
と一生懸命かちつゝ

ある、五左衛門も振ほどかうとしたが、崖つぶちの事だから、治兵衛の云ふ通り拙くすると一緒に谷底へ落込みさうだ、そこで總身に力を籠めズル／＼ズル／＼道の真中へ引張つて来て、サア振放さうとしたが、老人に似氣なく力のある男でダニのやうに附着いて居て離れない、遂にそこへ捻倒された

五「コレ放せ、天下の旗本に向つて無禮をするな」
治「何が旗本だ、此の泥棒の人殺し野郎、叩ッ殺してやるから覺悟をしろ」
と左手で五左衛門を押へて置いて、右手で傍りに落ちて切石を振つて、五左衛門の横面を狙つて打たうとした、自然押へる方の力が緩んだから此處ぞと五左衛門呼吸を計つてゴロリ岩兵衛を引繰返して上に跨がつた

五「サア見ろ爺、能くも手向ひをしたな、最早免れぬ處だ、覺悟をしろ」
と片手で押へて置いて片手で差添抜かうとしたが、大力の治兵衛殊に生死の境死物ぐるひといふ奴で、五左衛門が脇差を抜かうとして聊か腰を浮かした途端にドーンと刃返した、機會を食つて五左衛門ヒョロ／＼とよろけて行つて仰向けにドーンと打倒れた

五「此奴め」
と起上らうとする内に、起き上つた治兵衛が、持つてゐた切石をポーンと投げつけた、身を轉さうとした

が間に合はない、横面、小鬚の邊りへ中つたから、皮が破れてタラタラツと血が流れた
五「あゝ痛、能くもやりをつたな、最早勘辨ならん覺悟をしろ」
とギリギリ村正の大刀を引抜いて真向に振被つた
治「抜きやがつたな、サア斬れ斬つてくれ」
と云ひながらも、治兵衛四邊を見廻して、手早く石を二つ三つ拾ひ取り、ポーン／＼投付ける、最早我が手の内と五左衛門、飛び来る石をさげながら、ジリ、ジリと詰寄つて行く。

科病柳花 科兒小 科内
院醫沼藤
需應院入
町屋紺町平 電話七〇五
番七〇五

科婦科外
院醫坂井
町田町平 電話九五五
番九五五

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

貸切の御用命は!!!
獅子吼(四四九ノ勢デ)
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
硝子 壺
硝子 食器
其他 各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支工場 仙臺市榮町(電五九七番)

全外科 醫學博士 渡部 義夫
小兒科 女 醫 渡部 きい子
内小兒科
平町田町大通り(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科